

姫路科学館

企画展「くらべてわかる！アンモナイト」

開催期間：2025年 4月26日（土）～2025年 7月 6日（日）



企画展示
開催状況写真①（ハイライト）
展示室入口



企画展示
開催状況写真②（ハイライト）
北海道のアンモナイト



企画展示
開催状況写真③（ハイライト）
淡路島のアンモナイト



企画展示
開催状況写真④（ハイライト）
アンモナイト以外の化石

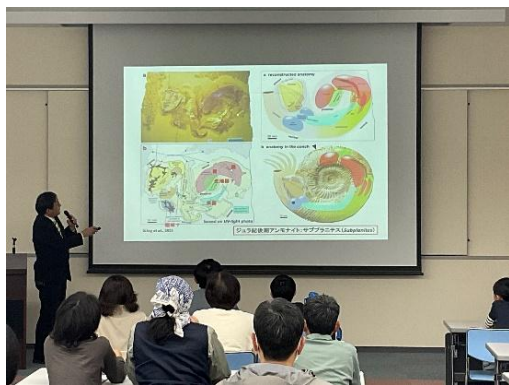


企画展示
開催状況写真⑤（ハイライト）
展示室出口



企画展示
開催状況写真⑥（ハイライト）
駐車場出入口看板

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。



関連事業
開催状況写真①（ハイライト）



関連事業
開催状況写真②（ハイライト）



関連事業
開催状況写真③（ハイライト）



関連事業
開催状況写真④（ハイライト）



関連事業
開催状況写真⑤（ハイライト）

【企画展の内容・目的】

- 13科のアンモナイト化石の展示により、それらのアンモナイトの形態や生きていた時代を比較してもらうことで、様々な「海の環境」に対する適応・進化の学びにつなげる
- 講演会、クリーニング体験、レプリカ作り、ギャラリートーク、絵本の読み聞かせを行い、研究者の話を聞く体験、実際に手を動かす体験など様々な体験を行える場を用意することで、アンモナイトという古代の海の生き物について興味関心を持つ機会を持ってもらう
- 「兵庫古生物研究会」（在野団体）と連携し、標本の展示や関連事業を行うことで、自然科学におけるアマチュアの役割の重要性を知ってもらう

1. 企画展示の内容

■開催期間：2025 年 4 月 26 日（土）～2025 年 7 月 6 日（日）

■開催場所：姫路科学館 1 階 特別展示室

■入場者数：17,676 人



姫路科学館 外観



企画展会場 入口



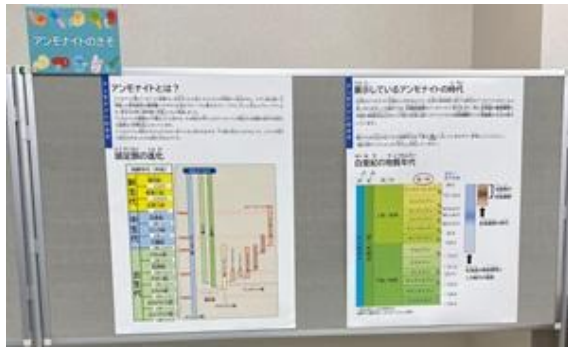
展示物 直径約 70cm のアンモナイト



展示物 タッチOK のアンモナイト

- 天井から職員制作のイラストを使ったアンモナイトガーランドを吊るし、換気用の扇風機の風で揺らすことで、海中を泳ぐ生体のイメージを持ってもらうことを狙った。
- 多くの方々の「なんとなく想像していた大きいアンモナイト（例：常設展示のさわれるアンモナイト約 30cm）」よりも大きな種の化石（約 70cm）を展示室入口付近に展示することで、古生物としてのアンモナイトについて興味を持ってもらう狙いがある。
- 観覧ルートの後半に触れられるアンモナイト（約 40cm）を展示し、化石になったアンモナイトに触れることで種・時代の違いを知ってもらう。
 - 展示室入口付近の直径約 70cm のアンモナイトは狙いどおりアイキャッチとなり、これを見ようと入場する来館者が見られた。小学生以上ではこの標本がアンモナイトであることに気付く人が多く、その大きさに驚いていた。
 - 未就学児とその保護者という組み合わせでは、保護者が子どもに「大きいね」「昔生きていたんだよ」「さわってみよう」と声掛けしながら観覧する様子が見られ、アンモナイトの形や大きさを観察し、化石について共に学んでいた。

- 興味・関心の入口として展示した大きなアンモナイトを見た後に、「アンモナイトとはどのような生き物だったのか」についての解説を設置した。



展示物 アンモナイトの解説



展示物 アンモナイトの殻の解説

- 化石標本と復元画（兵庫古生物研究会監修のもと地域の高校生が制作）と実物を一緒に展示することで、形態の差異が視認しやすくなるとともに、生時の状態を想像しやすくする狙いがある。



展示物 展示ケースのようす



展示物 北海道のアンモナイト

- 展示ケースには「浅い海の水」をイメージした水色と、「深い海の水」をイメージした青色のフェルトを敷き、標本を保護しつつ、海のイメージを持ってもらうことを狙った。
- 蝦夷層群のアンモナイトは、一般的にイメージされるアンモナイトの形態とは異なり、異常巻きと呼ばれる形態のものが比較的多く、特異な見た目から興味を引く効果が見込める。
- 古生物は形態の差異から種に分けられ、複数の種に共通する特徴から、属や科といったグループに分類することができる。蝦夷層群から産出する 13 科のアンモナイトを展示し、形態を比較することで、科を分ける形態の差異を知ってもらい、同所的に産出するアンモナイトの多様性を感じてもらおう。
 - 来場者から、カラフルなイラストが展示されており生きていた時の姿を想像しやすかった、という声があり、生体復元画の効果を実感できた。制作の際、「生きていた時の色はわからないので、現生の動物を参考にしながら、展示室をにぎやかにするために少し華やかな色を使ってほしい」と依頼していたが、狙いどおり来場者の目にとまるイラストになった。
 - 異常巻きアンモナイトの形を、ソフトクリームやウシ科動物などの角、ラーメンなどに例えて楽しむ様子が見られ、楽しみながら形態的特徴を観察・比較してもらえた。
- 兵庫県には、蝦夷層群と同じ白亜紀後期の地層群である和泉層群が分布しており、特有のアンモナイトが産出する。和泉層群、特に淡路島で産出したアンモナイトの化石を展示し、同時代でも異なる地域では産出する種が異なることを知り、比較してもらおう。
- アンモナイト以外に、蝦夷層群および和泉層群で産出する頭足類（オウムガイ類、鞘形

類)や腹足類の化石を展示し、アンモナイトに形が似ている動物との違いを比較してもらう。

- 職員制作の「アンモナイトぬりえ」をホームページ上で公開し、市内幼稚園・保育園・こども園や一般から作品を募集した。生時のアンモナイトの色を想像してもらうほか、応募作品を青い背景に貼り出して展示し、アンモナイトが繁栄した中生代の海の様子を想像してもらうことを狙った。
 - 兵庫県で多くの化石が見つまっていることを知らない来場者が、「淡路島で化石が取れるんだ」と驚く様子が見られた。兵庫古生物研究会の提供で淡路島の採集地の写真を展示しており、海で化石を探してみたいとコメントする来場者が見られた。
 - ぬりえ企画は、幼稚園などの活動に使用された。また、一般から親子・家族で作成した作品の応募があり、市民に楽しみながら生時の体色を想像してもらうことができた。背景に中生代の海の様子を描いた作品もあり、海について考えてもらう機会となった。

【来館者の声】

○いつから海があったかを学びたくなりました。

○地球誕生から今までの長い年月の間に海からいろいろな生物が生まれ、まだまだ知らない生き物もたくさんいて海の壮大さを感じました。

○アンモナイトの縫合線がハッキリ出ているやつがとてもかっこよかったです。色んなアンモナイトが見れてよかった。海の中にこんな生き物が本当にいたんだと思いました。

○ずっと古代からある海を今後も大切にしたいと思った。

○アンモナイトの化石にさわれたこと、たくさんの種類のアンモナイトがあることを知れたこと。子供はぬり絵を楽しんでいました。太古の海でたくさんのアンモナイトや生き物が泳いでいた事を想像すると楽しくなりました。

○海の生き物が山の中で（化石として）見つかったのがふしぎ

○海やアンモナイトについて見て知れてよかった。大きなアンモナイトの化石はなかなか見ることがないので面白かった。海が自然が知れた。

2. 関連事業の内容

■科学講演会

【開催日時】2025年 4月26日(土) 13:00 ~ 14:30

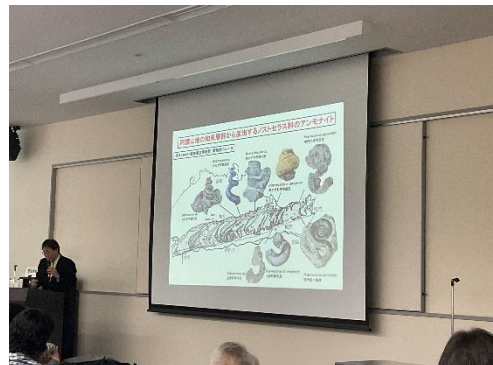
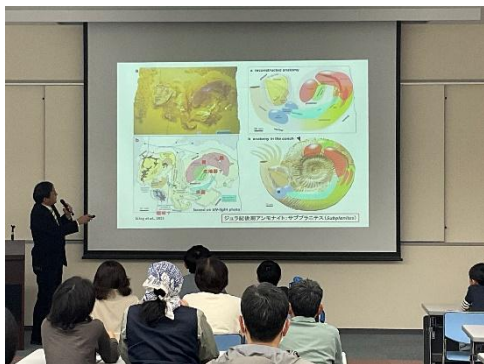
【開催場所】姫路科学館 4階 講義室

【参加者数】55人(申込76人、欠席22人、当日参加1人)

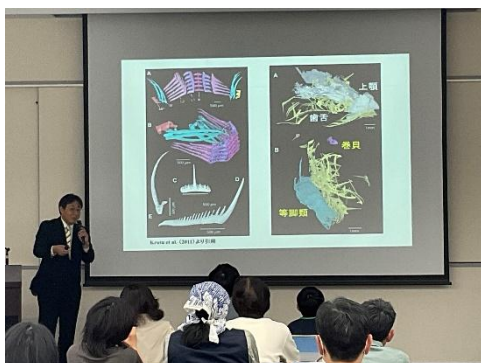
【目標・内容】

●白亜紀のアンモナイトの分類や生態を専門とする徳島県立博物館の辻野泰之学芸員を講師に招き、講師が研究してきた蝦夷層群や和泉層群のアンモナイトについてご講演いただくことで、参加者に展示とは異なる角度でアンモナイトについて学んでもらう。

●企画展において展示しているアンモナイトについての内容を交えながら、日本のアンモナイトの研究についてご講演いただくことで、アンモナイト研究における蝦夷層群・和泉層群の重要性を知ってもらう。



- 企画展において展示しているアンモナイトについての内容を交えながら、日本のアンモナイトの研究についてのご講演いただくことで、アンモナイト研究における蝦夷層群や淡路島の和泉層群の重要性を知ってもらう。
- 淡路島から産する化石と講師の専門を交えて展示では解説しきれなかった範囲を参加者に聞いていただくことができた。



- 講演会後半までにアンモナイトについて詳しく説明していただいた後に、近年の研究で新たに分かってきた内容についてお話しいただいた。
- 口の形で食べ物が違っていて水中を漂うプランクトンなどを食べていた可能性があり、前半の内容のイカ・タコとは食べ物が違っていただいた可能性はあるという内容をお話しいただき、質問の時間にもアンモナイトの口（顎器）についての質問が挙がった。

【来館者の声】

- アンモナイトについてくわしくしれた。
- いろいろな種類のアンモナイトがいるんだとわかりました。ありがとうございました。
- いじょうまきのおもしろさを知った
- アンモナイトって、オウムガイのような形のものをイメージしていましたが、縦に長いものや、重なっていないものがあることを知って、大変学びになりました！
- すばらしかったです！とても勉強になりました！！

■化石クリーニング体験

【開催日時】 2025年5月3日（土・祝）、6月1日（日）
14:00～15:00

【開催場所】 姫路科学館 1階 特別展示室

【参加者数】 延べ21名

【目標・内容】

- 砂や泥といった硬いイメージのないものが堆積して時間をかけて岩石になると、どれほど硬くなるのかを参加者自身の手で化石を取り出すことで実感してもらう。
- 化石ができるのが主に海底であることを展示でも示した上でこの体験を行うことで、海洋環境やどのように生物の死骸が海底で化石になるのかについて考えてもらう。



- 実際に手を動かして体験してもらうことで、化石に興味を持ってもらう。実物標本が参加者の手元に残るため、化石に親しみを持ってもらいやすくなる。
- 化石標本が展示されるまでに経る手順を体験してもらう。
- 化石ができるのが主に海底であるということを展示でも示した上でこの体験を行うことで、海洋環境やどのように生物の死骸が海底で化石になるのかについて考えてもらう。
- 砂や泥といった硬いイメージのないものが堆積して時間をかけて岩石になる。その結果、どれほど硬くなるのかを参加者自身の手で化石を取り出すことで実感してもらう。
- クリーニング体験で使用するノジュールからは、アンモナイトと同じ時代に生きた二枚貝などの他の海洋生物も見つかる。このことから当時の海について考えてもらう目的がある。
- 講師である兵庫県古生物研究会の会員たちがアンモナイトのクリーニングだけでなく、展示内の解説を参加者に個別で話す様子が見られた。参加者も個別だと質問しやすいのか疑問を多く解消できた様子だった。

【来館者の声】

- 古代の海、そこにいた絶滅した生物について想像できる機会になった。
- 化石のクリーニングは根気のかかる仕事。
- 長い年月を感じた。我々の代以降も海を守り続けなければならないと感じた。

■化石レプリカ作り

【開催日時】2025年4月26日（土）・29日（火・祝）

5月6日（火・祝）・10日（土）・17日（土）
・24日（土）・31日（土）

6月7日（土）・14日（土）・21日（土）

・22日（日）・28日（土）・29日（日）

7月5日（土）

14:00 ~ 14:30

【開催場所】姫路科学館 1階 特別展示室

【参加者数】延べ116名

【目標・内容】

- 化石ができるのが主に海底であることを展示でも示した上でこの体験を行うことで、海洋環境やどのように生物の死骸が海底で化石になるのかについて考えてもらう。
- 実際に手を動かして体験してもらうことで、学習内容の定着を図る。実物と同じ形のレプリカが参加者の手元に残ることで、化石を身近に感じてもらう。



化石のレプリカについて

化石のレプリカは、元になる化石と同じ形になるように型をとり、石膏や樹脂で固めて作ります。石膏や樹脂は、水を加えると固まる性質があります。石膏や樹脂は、水を加えると固まる性質があります。石膏や樹脂は、水を加えると固まる性質があります。

レプリカを作ったアンモナイトについて

アンモナイトは、中生代白垩紀から新生代第三紀にかけての海洋に生息していた化石動物です。アンモナイトは、中生代白垩紀から新生代第三紀にかけての海洋に生息していた化石動物です。アンモナイトは、中生代白垩紀から新生代第三紀にかけての海洋に生息していた化石動物です。



化石のレプリカについて

化石のレプリカは、元になる化石と同じ形になるように型をとり、石膏や樹脂で固めて作ります。石膏や樹脂は、水を加えると固まる性質があります。石膏や樹脂は、水を加えると固まる性質があります。石膏や樹脂は、水を加えると固まる性質があります。

レプリカを作ったアンモナイトについて

アンモナイトは、中生代白垩紀から新生代第三紀にかけての海洋に生息していた化石動物です。アンモナイトは、中生代白垩紀から新生代第三紀にかけての海洋に生息していた化石動物です。アンモナイトは、中生代白垩紀から新生代第三紀にかけての海洋に生息していた化石動物です。



企画展ワークショップ
化石レプリカ作り

対象 小学生以上
（小学生以上） 約15分
会場 特別展示室
定員 10名

○作りかた○

①型とねんどを準備
②型にねんどを詰め、ねんどを固めて型から取り出す
③型にねんどを詰め、ねんどを固めて型から取り出す
④型にねんどを詰め、ねんどを固めて型から取り出す

⑤型にねんどを詰め、ねんどを固めて型から取り出す
⑥型にねんどを詰め、ねんどを固めて型から取り出す
⑦型にねんどを詰め、ねんどを固めて型から取り出す

⑧型にねんどを詰め、ねんどを固めて型から取り出す
⑨型にねんどを詰め、ねんどを固めて型から取り出す
⑩型にねんどを詰め、ねんどを固めて型から取り出す

⑪型にねんどを詰め、ねんどを固めて型から取り出す
⑫型にねんどを詰め、ねんどを固めて型から取り出す
⑬型にねんどを詰め、ねんどを固めて型から取り出す

⑭型にねんどを詰め、ねんどを固めて型から取り出す
⑮型にねんどを詰め、ねんどを固めて型から取り出す
⑯型にねんどを詰め、ねんどを固めて型から取り出す

⑰型にねんどを詰め、ねんどを固めて型から取り出す
⑱型にねんどを詰め、ねんどを固めて型から取り出す
⑲型にねんどを詰め、ねんどを固めて型から取り出す

⑳型にねんどを詰め、ねんどを固めて型から取り出す
㉑型にねんどを詰め、ねんどを固めて型から取り出す
㉒型にねんどを詰め、ねんどを固めて型から取り出す

㉓型にねんどを詰め、ねんどを固めて型から取り出す
㉔型にねんどを詰め、ねんどを固めて型から取り出す
㉕型にねんどを詰め、ねんどを固めて型から取り出す

㉖型にねんどを詰め、ねんどを固めて型から取り出す
㉗型にねんどを詰め、ねんどを固めて型から取り出す
㉘型にねんどを詰め、ねんどを固めて型から取り出す

㉙型にねんどを詰め、ねんどを固めて型から取り出す
㉚型にねんどを詰め、ねんどを固めて型から取り出す
㉛型にねんどを詰め、ねんどを固めて型から取り出す

㉜型にねんどを詰め、ねんどを固めて型から取り出す
㉝型にねんどを詰め、ねんどを固めて型から取り出す
㉞型にねんどを詰め、ねんどを固めて型から取り出す

㉟型にねんどを詰め、ねんどを固めて型から取り出す
㊱型にねんどを詰め、ねんどを固めて型から取り出す
㊲型にねんどを詰め、ねんどを固めて型から取り出す

㊳型にねんどを詰め、ねんどを固めて型から取り出す
㊴型にねんどを詰め、ねんどを固めて型から取り出す
㊵型にねんどを詰め、ねんどを固めて型から取り出す

㊶型にねんどを詰め、ねんどを固めて型から取り出す
㊷型にねんどを詰め、ねんどを固めて型から取り出す
㊸型にねんどを詰め、ねんどを固めて型から取り出す

㊹型にねんどを詰め、ねんどを固めて型から取り出す
㊺型にねんどを詰め、ねんどを固めて型から取り出す
㊻型にねんどを詰め、ねんどを固めて型から取り出す

㊼型にねんどを詰め、ねんどを固めて型から取り出す
㊽型にねんどを詰め、ねんどを固めて型から取り出す
㊾型にねんどを詰め、ねんどを固めて型から取り出す

㊿型にねんどを詰め、ねんどを固めて型から取り出す
㊽型にねんどを詰め、ねんどを固めて型から取り出す
㊾型にねんどを詰め、ねんどを固めて型から取り出す

【来館者の声】

- 人類よりも長い海の歴史をもっと学びたいと思いました。
- 古代の海にこんな変わった生き物がいたことに驚いた。
- 古代の海について考える機会になった。
- きょうりゅうのせいにもしゃくもうれんさがあるということについてしれました。
- 古代の海にこんな変わった生き物（アンモナイト）がいたことにおどろいたので海について学びました。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

■ギャラリートーク

【開催日時】2025年4月27日（日）

5月5日（月・祝）・18日（日）

6月15日（日）

7月6日（日）

11:10～11:30、14:00～14:20

【開催場所】姫路科学館 1階 特別展示室

【参加者数】延べ51名

【目標・内容】

- 化石標本の採集者は採集時の状況を最も詳しく知る人物であり、当事者にしか語れない情景や感情も含めて、参加者に対して臨場感あふれる体験談を語ることができる。
- 展示物や解説パネルからは得られない情報を、実際に採集を行った会員に展示の解説をしていただくことで、企画展の内容をより詳しく理解してもらうことにつながる。



- 展示標本の採集者（兵庫古生物研究会会員）に講師としてお話しいただいた。化石標本の採集者は採集時の状況を最も詳しく知る人物であり、当事者にしか語れない情景や感情も含めて、参加者に対して臨場感あふれる体験談を語ることができる。
- 展示物や解説パネルからは得られない情報を、実際に採集を行った会員に展示の解説をしていただくことで、企画展の内容をより詳しく理解してもらうことにつながる。
- 標本と採集者が並んでいることにより、参加者の質問に答えやすい環境を作ることができる。
- 開催初回には、小学生以下の参加者からの発言・質問が多く、しばらくして質問が落ち着いたところに講師に大人の参加者が質問する様子が見られた。

【来館者の声】

- 海の中→陸へ隆起（アンモナイトの発見！） 地球の営みのすごさを感じた。まさに母なる海！！
- アンモナイトについての説明がよくわかり、質問もさせて頂けたのでアンモナイトを身近に感じられました。
- アンモナイトはいろいろな形があることが分かりました。思っていたよりクリーニングに時間がかかることに驚きました。おもしろかったです。

■化石絵本の読み聞かせ

【開催日時】2025年5月4日（日・祝）・11日（日）・25日（日）
6月8日（日）

11:10～11:40、14:00～14:30

【開催場所】姫路科学館 1階 特別展示室

【参加者数】186名

【目標・内容】

- 絵本の読み聞かせを得意とする兵庫古生物研究会の中西会員が、三輪一雄著の「石の中のうずまき アンモナイト」の読み聞かせを行う。本書はアンモナイトの殻のうずまきに注目した内容となっている。
- イラストと実写の写真とを織り交ぜた構成となっているため、参加者は中生代の海を想像しながら読み聞かせを聞くことができ、低年齢の参加者にも展示の内容が伝わりやすくなる。また、その保護者にもアンモナイトについての興味を持ってもらいやすくなる。



- 中生代の海の生き物であるアンモナイトについて絵本を通じて学べ、様々な年齢の参加者がアンモナイトに興味を持つきっかけとなる。
- イラストと実写の写真とを織り交ぜた構成となっているため、参加者は中生代の海を想像しながら読み聞かせを聞くことができ、低年齢の参加者にも展示の内容が伝わりやすくなる。また、その保護者にもアンモナイトについての興味を持ってもらいやすくなる。
- 特に未就学児がターゲット。
- 写真2枚目には、読み聞かせの内容についてのクイズを参加者が解いている様子を掲載した。アンモナイトはいつ絶滅したのか、日本では何種類ほど見つまっているのか、など展示にも繋がるクイズを出題しており、クイズを解いた後に展示を再び見る参加者が多く見られた。

【来館者の声】

- 絵本の読み聞かせ 絵本がもともと好きなので、アンモナイトがたくさんの中で聞けたのはとても良かったです。
- 絵本の内容に沿ったクイズがよかった
- 海と化石のつながりを感じました

【事業全体のまとめ】

本展および付帯事業を通じて、来場者に様々な形で海の学びを提供できたと感じています。アンモナイトは、捕食者と考えられている魚竜やモササウルスと関連付けて展示・解説されることが多いですが、本展ではこれらを登場させず、アンモナイトをとことん掘り下げました。これにより分類群全体の一般的な解説にとどまらず、科ごとに詳細な解説を加えることができました。サポートを活用させていただき、図録作成や地元高校生による生体復元画制作、外部講師を招いての豊富なイベントなど、普段なかなかできない企画にチャレンジできました。来場者からは「種類が多く驚いた」「今まで見てきたアンモナイト関係の特別展では質・量ともに最高クラス」という声をいただくなど、ライト層からディープなファンまで、アンモナイトについて新しい発見を提供できたと感じています。

3. 主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
1. 兵庫県古生物研究会	展示制作・図録制作・関連事業講師
2. 兵庫県立人と自然の博物館	標本借用
3. 徳島県立博物館	関連事業（講演会）講師
4. 兵庫県立高砂南高等学校	生体復元イラスト作成
5.	

4. 主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1. 神戸新聞	知ろう作ろうアンモナイト（5月1日掲載）
2. 読売新聞	太古のロマン触れて（5月7日掲載）
3. 公明新聞	企画展『くらべてわかる！ アンモナイト』（5月16日掲載）
4. 朝日新聞	アンモナイトの化石集合 北海道や淡路の300点 姫路科学館企画展（5月20日掲載）
5. 毎日新聞	見比べて目が回りそう（5月22日掲載）
6. 姫路ケーブルテレビ「ウィークリーひめじ」	まちの話題（1）科学講演会「恐竜時代の変った形をしたアンモナイト」（5月12日放送）
7. サンテレビ「サンテレビニュース」	淡路島などで見つかったアンモナイト化石300点を紹介する企画展（5月30日放送）

以上